

# 雷の子

カトリック町田教会  
町田市中町3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

## いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



「...彼女の胎内に宿されているものは、聖霊によるのである。彼女は男の子を産む。その子をイエスと名づけなさい。その子は自分の民を罪から救うからである」

マタイ1・20 22

## 小さな樅の木

主任司祭 小池 亮太

冷たい風が、色づいた木々の葉を散らす頃になると、クリスマスが近づいてきたことを感じさせるものが、そこかしこに見られるようになりま

す。その一つが、美しく飾られたクリスマスツリーです。クリスマスツリーの起源については諸説ありますが、次のような話があります。「八世紀、十二月のある日のことす。福音をのべ伝えるためにドイツに派遣されて

起きませんでした。その時、樅の巨木が切り倒された際、周囲の木々が下敷きとなって倒れてしまったにもかかわらず、樅の幼木が一本だけ倒れずに残っていたのです。それを見たポニファチオは、その樅の木を命の象徴、幼子キリストの木として人々に広め、これがクリスマスツリーの起源となりました」

この話に、樅の巨木が出てきました。樅の巨木が御神木と呼んで、神の宿る木、神の依代として祀る習慣は、日本にも古くからあります。このような巨木が、ある日、何者かによって切り倒されたら、「何か良くない事が起きる」と考えるのが日本人の普通の感覚でしょう。それは、長い時間をかけて巨大になった生命と、それを育んだ自然に対する畏敬の念と、今まであったものが、頼りにしていたものが、突然に無くなってしまった不安がそう思わせるのではないのでしょうか。

自分たちが頼りにしている神トールが宿る樅の巨木が、イエス・キリストをのべ伝えるポニファチオによって切り倒された時に人々が感じた恐れと不安は他人事ではありません。今まではまったく環

境の違う所で生活を始めたり、頼りにしていた人を突然失ったり、他にも様々な理由で、何を頼り、何を信じて良いのか分からなくなつて、不安にかられることが私たちにもあります。そして、今も心にほつきり穴が開いたように感じている人たちが世界中にたくさんいます。

だからこそ、今年も、切り倒された巨木の傍らに残った小さな樅の木のように、そのような人たちの傍らに、神の独り子が幼子の姿でひっそりとやってきました。そして、それに気づいた時、人は神の独り子と共に、新しい一歩を踏み出す事ができるし、その時

## 運営委員の二年間を振り返って

運営委員 富田 充裕

からイエスは共に歩んでくれることになりました。これこそ不安と喪失感の中にある人にとっての支えであり、希望、また、喜びです。

小さな樅の木がゆっくりと、天にも届く巨木になってゆくように、今年も幼子として地上にやって来るキリストと共に、私たち一人ひとり、また、町田教会共同体が成長してゆけますように。シヨッピングモールで、見上げるほど巨大なキラキラと輝くクリスマスツリーを見た後で、街角の家の窓際に置かれた、掌にのるほど小さく素朴なクリスマスツリーを見つけて、そのような事を考えていたのでした。

二〇一三年の新年会で声をかけられ、「不覚にも？」運営委員をお引き受けしてから、もうすぐ二年が経とうとしています。何かお手伝いができればと思いきや、教会の中の各種業務のことを全く知らなかつた私がなんとか運営委員の仕事が続けてこられたのは、神父様、運営委員の皆様、受付けなどの教会業務の皆様、信徒の皆様のおかげにたいしたからだと思います。この紙面をお借りして感謝申し

上げたいと思います。信徒になってまだ間もない私が、運営委員になって新たに知ったことがたくさんあります。以前から教会にはポーンスカウト活動などを通してお世話になっていましたが、教会の組織や教会を支えるさまざまな活動について恥ずかしながら全く知りませんでした。運営委員の他に典礼委員会、財務委員会、施設管理委員会などの委員会、地域ブロック連絡会や活動グループ連絡会などの連絡会、各種の

担当業務があること、さらにそれらの組織に多くの人々が関わること、教会組織が成り立っていることです。七年前に妻を亡くしたことをきっかけに入信し、神父様はじめ多くの方々に支えられてきた私ですが、今回運営委員として教会のお役にたつことができたとしたら、少しは教会の皆さまへの恩返しになったのではないかと思います。

運営委員になって良かったと思えた一番のことは、教会の多くの方々との知り合いになったことです。ミサの時やボーイスカウトの活動で教会を訪れた時に挨拶できる方が増えたこと、多くの方々から声をかけていただけるといったこと、とても嬉しいことです。また、ボーイスカウト出身の立場として、新年会や救急救命講習などを通して教会とボーイスカウトとのつながりを深めることができたのではないかと思います。人と人のつながり、これこそが神様が与えてくれたお恵みと感謝しつつ、皆さんと一緒にクリスマス、年始の新年会を楽しみたいと思います。皆さんのご協力のもと、楽しいイベントにしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくどうぞお願いいたします。

いつも開かれた教会に  
留守番ボランティア  
水野 貴久子

土曜、日曜の町田教会は活気があふれ、小池神父様は昼食をとる間もないほど大忙しです。で、週日の神父様は休暇? とんでもない!

教区本部の仕事や病床訪問のために殆ど毎日外出。ミサ、聖書研究、入門講座、冠婚葬祭もあり。典礼、財務、施設管理など各委員会が役割を分担していますが、全ての責任は神父様にあります。

週日の昼間、ボランティアが交代で留守番をするようになって二年余りたちました。神父様が司祭として本来の仕事、司牧に専念できる一助となればと願って働いています。電話の取次や問い合わせへの対応、宅配荷物や郵便物の受取り、訪問者の案内などが主な仕事です。もちろん、留守番中に見聞きしたプライバシーに関する情報は一切口外しない守秘義務は守っています。

聖堂では、イエス様が両手を広げて誰でもいつでも待っておられます。神父様も福音を求め、困難を抱える人を温かく迎え、神様と人々の交わりを深めておられます。そして留守番ボランティアは、教会を訪れる人々が明る

**人生最後のステージを心豊かに過ごすにはどうしたらよいか**

**人生最後の大事さ**

そのときは「だれにも必ず平等に来る!」

十字架(遺言)をムダにしなさい

キリストは人間になおしてください

Fr.小池 愚か者!...

すべて主にまかせ信仰を深める神を信じるそれだけ

今、今、今を今しかねい、考えて生きていけるか、心がまえを!

シスター-高木慶子 (たかぎよしこ) 礼拝(ミサ)永

ありがとう! ごめんなさい!

自分を大事にするようにまわりの人を大事に!

愛

神への感謝! 信仰があれば死んだら天国(神の国)へ行く

信仰がないと不安のたうちまわります

信知る 恵み

神の言葉「タネ」

種を蒔く人のたとえ

復活したイエスと最初に会ったのは女

(ヨハネ 20:11-14 マグダラのマリヤ)

「最上のわざ」

ヘルマン・ホイヴェルス (上智大初代学長) ドイツの友人から贈らせた詩

イエズス会

★12使徒の選び この時代(ルカ 6:12-16) 女は奴隷で選ばなかった

★1パンを増やす(マルコ 6:44) 1パン 5000人 男だけの数

神は最後にいちばんよい仕事を残してくださる。それは祈りだ...手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。.....

「最上のわざ」の一部 「人生の秋に」春秋社

カ656(典礼聖歌286ページ)「主にまかせよ」

1.主にまかせよ汝が身を 主はよろこびたすけまさん...

★ありがとう!ごめんなさい!とその日の為に愛をわかち合いましょう!

★廣田和之さんの記事も併せてお読みください。

気持ちで帰られるように努めております。

神様が教会に託された使命を果たすために、神父様と信徒がそれぞれの立場を尊重しながら、支え補いあっていますように祈ります。

シスター高木の講演会

廣田 和之

生涯養成委員会では、10月19日に、上智大学グリーンフケア研究所特任所長であるシスター高木慶子を町田教会にお招きし、「終活」最期に考えることの大事さ」をテーマに、お話を伺いました。

私がシスターのお話を聞いて感じたことは、人にはそれぞれの人そのものの死があるということ。自分がどれほど望んでも、人間は「死ぬ時」「死ぬ場所」「死に方」を選ぶことはできません。自分がどのように生まれるのかを選ぶことができないのと同じように、シスター高木の言葉を借りると、「死はこちらから近づくのではなく、向こうからやってきて、それは何人にも避けられるものではない」からです。

それでは、私たちはどのようにして、向こうから必ずやってくる死を迎え入れたらよいのでしょうか？ シスター高木によると、祈

りの実りは愛徳であり、特に身近にいる家族・親戚・友人に対し、慈しみの心で感謝と謝罪を伝え、そのような人を大切にすることを取ることだそう。

私をはじめ、多くの人にとって、死は漠然とした恐れのあるものだと思います。それに対し、シスター高木はこう述べられました。「誰か友人で死を恐れていたなら、次のように言っておあげてください。『ただ神を信頼してください。天国であなただけを待っていてくださるから、心配しないで大丈夫よ』と」

そして、最後にカトリック聖歌集の『主にまかせよ』を皆で歌い、講演を終えました。私がこの原稿を書いているのは11月。カトリック教会では伝統的に死者の月とされています。私も良き死を迎えられるよう改めて痛悔し、黙想したお話をした。

福島野菜畑の「遠藤さん」

町田教会被災地支援センター 立木 欣吾

福島野菜畑の遠藤さん？

すくに思い出せない方もいるかもしれません。二〇一一年の秋から二ヶ月に一回、町田教会に野菜や果物を販売に来てくれている優しく力持ちの男性だと説明すれば思い出

していただける方も多いのではないのでしょうか。

遠藤さんは夜中の一時過ぎに福島を出て、他の教会で荷物を下して、町田教会に六時半頃に到着。それから準備をして早ミサの終わる八時半過ぎから販売を始めて十二時過ぎに終了、片付けをして、他の教会で販売をしている同僚の方を拾って夕方に福島に戻ります。

遠藤さんは福島県の中通りと呼ばれる本宮市に住んでいます。海の近くでなく震災の被害はそれほど大きくはありませんでした。それでも瓦が落ちる、壁にヒビが入るなどしたそうです。原発からは離れていて放射能汚染の被害もないのに、福島ということだけで、震災直後は野菜に買い手がなく値がつけられない時期もあったそうです。

同じ福島県で、地域によって生活補償される場所とそうでない場所があることに不公平だなと感じることはあっても、そこは割り切って、自分のできることを一つ一つやっています。そんな気持ちで野菜販売に取り組んでいるそうです。

町田教会の特徴は何かありますかと聞きしたところ、二つあるそうです。一つは、教会の人だけでなく、近所の人を買りに来てくれること。

もう一つは、「どこの教会でも野菜販売に行く」と皆さんが支援しますよという感じで買ってください。とてもありがたいのですが、町田教会は早い時期に、この間のリンゴ美味しかった、の声もあれば、この前買ったナス美味しくなかった、とか、これちよっと高いんじゃない？ と言われることがあります。商売していれば当然、お客様から言われることです。「普通」にお客様と話ができることがうれしいですね。お客様と気兼ねなく話すことで、楽な気持ちで仕事ができるそうです。

今、福島野菜畑は首都圏の三十近い教会で販売をしています。その数は増え続き、やめた教会はないそうです。

今年是全国的に天候不順で農作物に大きな影響が出ましたが、福島では影響は少なかったそうです。福島の野菜や果物はいつも放射線量をチェックして安全です。皆さんに喜んでいただけたら、これからはも取れたての新鮮で安全な野菜、果物が届けられるようにしますと答えてくれた遠藤さんの顔が、生産者と販売者としての誇りにあふれているように見えました。



ベロニカの花♪ (10月26日) チャリティーコンサート  
はざた雅子さんによるカンテレ(フランスの民族楽器の演奏)とお話、聖堂を埋めつくした聴衆が聴き入った。



ウエルカムテーブル もみじ狩り (11月29日)

朝の雨で、いったんは取り止めになったものの、懇親会にしたらということになり15人が集合。結局は大山に行きました。雨、時々晴れ間、そして雲海の中の紅葉に歓声をあげた楽しい一日となりました。(夏多茂)

もう一つの書架

カトリック中央協議会が  
発行する本の紹介

横塚 千枝子



信徒ホールの壁一面にとりつけられた書棚の左となりには白い金属製の小型の棚があり、中央協議会が発行している本が並べてあります。これらは町田教会図書の種類ではKで始まる番号の教理、聖書に該当するのですが、K番号には登録しないで別の扱いにしています。これらの本は「展示見本」と表示されていますし、ほとんどが小冊子で背のラベルが貼りにくく、他の本と一緒に並べるとさがしにくくなるからなのです。

本の内容は回勅、使徒的勸告、霊的講話など、教皇庁や日本カトリック司祭協議会からの公文書がおもなものです。約40冊ある内の半分はペトロ文庫という文庫本で、教義を広め信者の教化をはかりたいとの意向で発行されています。整理番号もここだけの番号にしてあり、ペトロ文庫はあえてPで始まる番号です。貸出方法はカードではなく、置いてあるノートに記入しています。教皇がたのことばにふれ、ふつうの読者より一歩心の奥へ進むことのできる本のいくつかを紹介します。

回勅 パーチエム・イン・テリス、地上の平和

教皇ヨハネ二十三世

第二ヴァチカン公会議を招

集したヨハネ二十三世により東西の冷戦のさなか、一九六三年に配布された。教会がこれまでに出した人種に関する文書のなかで最も重要なものと評判が高く、発布から50年を記念してペトロ文庫に加えられた。(番号P22)

使徒的勸告 福音の喜び

教皇フランシスコ

「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」をテーマとして、熟慮と活力に満ちた宣教の新しい段階へと、教会を上げまし方向づけるための具体的提言がされている。新教皇の人氣と共に版を重ねている。(番号19)

いのちへのまなざし 二十一世紀への司教団メッセージ

新しい世紀を歩むすべての人々のいのちと人生を照らし支える力となり、勇氣と希望が与えられるよう願っての司教団からのよびかけ。(番号3)

信教の自由と政教分離

「自民党新憲法草案を検証する」谷司教、「戦中と戦後のカトリック教会の立場」岡田大司教、「信教の自由と国家」高見司教など四人の司教の論考を収録。(番号11)

クリスマスと年始のミサ

☆クリスマスのミサ { 12月24日(水) 17:00  
19:30  
22:00  
イブ(24日)のミサ前に  
ミニコンサートを行います  
12月25日(木) 11:00

2015年  
☆年始のミサ1月1日(木) { 00:00  
11:00



七・五・三  
おめでとう

七・五・三  
先唱をする子供たち



303号巻頭言のシークレフ

犠牲献金  
中高生会

10月12日 14,158円  
(ペロニカ苑へ)  
11月2日 16,605円  
(ペロニカ苑へ)

信者動静